

< もくじ >	
年頭の辞	1
1. 本年度連続講座第6回の概要と受付のお知らせ	2
2. 社会福祉法人黎明会助成事業報告会～ICTを活用した高齢者の社会生活支援～(再)	2～3
3. 第3回研究会合同イベント「社会保障の明日を考える」(社会保障研究会 100 回記念シンポジウム開催のおしらせ(再掲))	3
4. 2017年大会テーマに向けた読書会「分断社会を超えて」のご案内(再)	3～4
5. 研究会からのお知らせ	4
6. 各研究会の概要報告	4～6
7. 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第15号 掲載原稿を募集します	6

年頭の辞

明けましておめでとうございます。新しい年を皆様はどのようにお迎えになりましたか？

ここ数年、心から「おめでとう」とは言い難い気分が襲われてきましたが、今年は一層その気持ちが強くなりました。昨年は、イギリスの欧州連合(EU)からの離脱とトランプ・アメリカ大統領の誕生という想定外の出来事が起こりました。二つの出来事は、自分の所属する集団の利益を最優先し、自分とは異なる存在を排除しようとする排他主義の始まりであり、第二次大戦後、長い時間をかけて創り上げてきた国際協調や多文化主義がもろくも崩れようとしている兆しといっているいいでしょう。



グローバル化によって、人も金も情報も国境を超える時代にもかかわらず、人びとの心の中には、高く厚い壁が築かれつつあります。ヨーロッパでは、難民受け入れに反対し、白人至上主義をかかげる右翼政党が勢力を拡大しています。人種のるつぼと言われ、多民族が協調して暮らすことが理想とされたアメリカで、人種差別的な言動が顕在化しています。

「一億総中流社会」といわれ、もっとも所得格差の少ない国であった日本は、今やもっとも格差の開いた国になりました。所得格差、学歴格差、企業間格差、世代間格差、都会と地方との格差、沖縄と本土との格差など、社会のあらゆる面に格差が広がっています。国際的にも、国内的にも、社会が分断され、未来への展望が開けない現状に不満を抱く人びとは、扇動的な政治家の言葉に惹かれていきます。このままほうっておいたのでは、社会は奈落の底に向かって一瀉千里です。何とかしてこの動きを止めなければなりません。シニア社会学会では、「持続可能な超高齢社会をめざして」を3年間にわたる共通テーマにかかげて大会を開催することにいたしました。昨年は、「現代日本における格差と貧困」をテーマに、駒村康平・慶應義塾大学の基調講演とパネルディスカッションを行い、その結果を『エイジレスフォーラム』15号に掲載いたします。今年の大会テーマは、「分断社会を終わらせる(仮)」。基調講演は、井手英策・慶應義塾大学教授です。6月11日(日)にお茶の水女子大学で開催いたします。世界と日本における分断状況を明らかにし、それを克服する道をさぐりたいと思います。多くの方々のご参加をお待ちしております。

2017年1月

袖井孝子(シニア社会学会会長)

1. 本年度連続講座第6回（最終回）の概要と受付のお知らせ

今年度連続講座第6回の開催概要をお知らせいたします。お申し込み受付中です。今年度の最終回であり、銀座での開催は最後となります。ぜひ、銀座の講座にお出かけください。

◆第6回講座は、2017年2月18日（土）開催です。◆

講演テーマ：「減築とリフォームで明るい未来を」

講師：天野 彰（建築家（アトリエA4 代表）、当学会理事）

（講演要旨）老後に強い2S+3Fの家？を 減築リフォームで

住まいづくりでこれから忘れてはならないのは住まいのプロテクトです。

あらゆる災害から身を守る「自助」と、そして老いに対する「自立」の備えです。これから起こり得る災害に対処するセルフディフェンスと、さらに安心して生きて行くためのセルフサポートの2つのSの住まいにすることです。

そして3Fとはバリアフリー、そして省エネのエネルギーフリー、さらに家を長持ちさせるメンテナンスフリーの3つのフリー、3Fの家にするのです。さて、そのリフォームと減築テクニックとは…？

※今回も、場所など開催要領は下記要領で共通となっております。

1) 場 所：東京銀座・資生堂 9Fホール

2) 開催要領：講演は14時～16時の開催（開場は13時30分）。募集人数は最大45名。

参加費は、会員2500円、非会員3000円。

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※各回参加費は、当日、会場にてお支払いください。

※今回で銀座シリーズは最後となりますが、ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。
（事務局担当 鈴木）

◇連続講座第5回参加者の感想（アンケート回答より抜粋）

第5回講座「ICTへのチャレンジ」講師：森やす子

- ・感想1 とてもわかり易かったです。これから時代の変わり方がすごく分かったように思います。（60代女性）
- ・感想2 ロボットの進化に驚いた。参考になりました。（70代男性）
- ・感想3 今日は勉強になりました。世の中どんどん進んでこれから先どう変化して行くか楽しみです。ついて行くには年だからと言ってはいられないチャレンジしないといけないと思いました。（70代女性）
- ・感想4 情報管理の面をしっかりと自分で行う必要があると思います。交信相手を考えて行えば実用面多いと思いました。自分自身でも学習して、賢い消費者にと考えました。（70代女性）
- ・感想5 専門的なことはよく理解出来ませんが、なんとなく分かったような気が致します。あくまでも流れです。社会現象のテンポが余り速く進んでいるので戸惑うことが多いです。でもお話を聞いて自分にはとてもプラスになりました。ありがとうございました。（70代女性）

2. 社会福祉法人黎明会助成事業報告会 ～ICTを活用した高齢者の社会生活支援～（再掲）

今年度、シニア社会学会は、黎明会の事業助成を受け、江戸川区でICTを活用した高齢者の生活支援に関する調査事業を実施しました。

報告会では、事業内容の報告の他、江戸川区の高齢者コミュニケーション支援サポーターの方々や地域包括支援センターのセンター長をお迎えして地域での実施の様子についてお話いただきます。

1) 日 時：2017年1月25日（水）14：00～16：00

2) 会 場：東葛西コミュニティ会館2階（江戸川区東葛西8丁目22番1号）

東京メトロ「葛西駅」から〔葛西21 東葛西九丁目経由 コーシャハイム南葛西行〕「東葛西八丁目」徒歩4分

3) 申込方法：お名前・連絡先（メールアドレス等）をお書きいただき、

メール（moriyasu@ied.co.jp）またはFAX（03-3806-0195）で担当（森）まで

4) 参加費：無料

◆司会

花崎 良政（当学会理事、ナルク川崎拠点代表）

◆報告

飯曾根京子（江戸川区在住 高齢者コミュニケーション支援サポーター）

大谷 力（江戸川区在住 葛西みまもり隊、ナルク東京）

森 やす子（当学会理事）

◆コメンテーター

後藤たか子（東京栄和会 地域福祉推進課 課長 熟年相談室 なぎさ和楽苑センター長）

袖井 孝子（当学会会長）

3. 第3回研究会合同イベント「社会保障の明日を考える」(社会保障研究会 100 回記念シンポジウム) 開催のお知らせ (再掲)

少子高齢化と経済不況が同時進行する日本社会では、社会保障制度を安定的に維持することが大変に困難です。年金、医療、介護など受給者が増大するにもかかわらず、保険料を支払う現役世代が縮小し、おまけに働く人の4割近くが非正規雇用です。高齢者には安心の老後を、若い世代には将来への夢を確かなものにするには、今、何をなすべきか、今後、社会保障制度はどうあるべきか、社会保障研究会が100回を迎えたことを記念して、シンポジウムを開催いたします。多数の方のご来場をお待ちいたします。

◆パネリスト

袖井孝子（シニア社会学会会長）

坂本純一（野村総合研究所、当学会会員）

酒井忠昭（医師・認定NPO法人ホームケアエキスパーツ理事長、当学会会員）

◆コメンテーター

辻哲夫（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、当学会会員）

◆コーディネーター

福田明美（NEC、当学会会員）

1) 日時：2017年3月5日（日） 13:30～16:00（受付は13時から）

2) 会場：東京家政学院大学三番町校舎1214室（市ヶ谷駅徒歩8分）

3) 参加費：1000円（学生：500円）

*シンポジウム終了後に懇親会（参加費：500円）

4) 申し込み方法：2月22日（水）までに、お名前、連絡先、懇親会への参加の有無をe-mail・

電話・FAXでシニア社会学会事務局までお申込みください。

事務局（月・水・金）：電話・FAX 03-5778-4728 e-mail: jaas@circus.ocn.ne.jp

4. 2017年大会テーマに向けた読書会「分断社会を超えて」のご案内 (再)

シニア社会学会では、2016年6月5日の大会から、3年をかけて「持続可能な超高齢社会」というテーマでじっくり考えてみようという提案をさせていただき、その第1回目を、「現代日本の格差と貧困」というテーマで開催しました。そして、第2年目の2017年度の大会では、「分断社会を超えて」というタイトルの下で、大会を開催することを考えております。基調講演には、井手英策先生（慶應義塾大学教授、財政社会学）をお迎えします。

そこで企画委員会では、一昨年の9月から11月にかけて袖井先生を囲んで行った「戦後70年座談会」のような形式で、小規模ながら「読書会」を開催したいということになりました。取り上げるのは、井手英策著『経済の時代の終焉』（岩波書店、2015）です。本書では、グローバル時代の日本の経済の動きと賃金格差の拡大するメカニズムが詳しく解説され、さらにこれからの経済社会の在り方について指針が示されています。この大著を、4回に分けて、担当を決めて内容を紹介していただき、そのあと自由に意見交換をしていけるような会を考えております。

第1回	2017年1月23日(月)	14:00～16:00	序章・第1章担当	坂林哲雄
第2回	2017年2月20日(月)	14:00～16:00	第2章担当	安田和紘
第3回	2017年3月14日(火)	14:00～16:00	第3章担当	中村昌子

第4回 2017年4月 未定 14:00~16:00 第4章・終章担当 未定

場 所：シニア社会学会事務局

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728 e-mail：jaas@circus.ocn.ne.jp

つきましては、ご参加いただける方を募集しております。参加ご希望の方は、メールまたは電話・FAXにて奮ってご応募下さい。読書会を通して、また、読書会には参加できない場合でも、一人ひとりが自分なりに「持続可能な超高齢社会」についてのイメージをもって、2017年6月11日の大会に臨んでいただけることを期待しております。
(大会企画委員会)

5. 研究会からのお知らせ

(1) 第100回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2017年1月25日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：堀 裕之氏(厚生労働省医政局)

3) テーマ：「人生の最終段階における医療体制」

4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室 東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

(2) 第40回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2017年1月26日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：①碓正義さんの発表と討議 — 濱口先生の巻頭言『~私たちは「不馴れな国民」であった?~』(JAASNews第208号&HPに掲載)を手掛かりに「持続可能な超高齢社会の実現」の課題を探る。」

②討議 — テーマ「持続可能な超高齢社会のための条件の確認」について

4) 参加費：300円

*お問い合わせは、事務局・島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) 迄お願い致します。

(3) 第36回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2017年2月23日(木) 18:00~20:00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

3) 講 師：紺野泰洋(早稲田大学大学院教育学研究科社会科教育専攻社会学コース修士課程)

4) テーマ：「繋がり」のライブハウス——「支援」と被災地との間で(仮)

(4) 「シニアのICT活用」研究会の開催について

現在、研究会開催は調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。

6. 各研究会の概要報告

(1) 第97回社会保障研究会概要報告

1) 日 時：2016年9月21日(水) 18:00~20:00

2) 場 所：日本労働者協同組合連合会 会議室 (ISPタマビル8階)

3) 講 師：佐藤 惟(日本社会事業大学大学院 博士後期課程)

4) テーマ：「人生の最終章における希望とは

—シニア社会学会・ナルク関東拠点における意識調査報告—

高齢期を迎えた方が、人生の最期に向けて抱く希望の内容と、その希望に関連する要因を明らかにすることを目的に実施した調査の結果を報告した。

調査は2016年1~3月にかけて行われ、シニア社会学会とナルク関東拠点の会員を合わせ、349名から回答があった(回収率52.6%)。このうち有効票317件の内容を見ると、「お墓を決める」「荷物の整理をする」「判断能力が衰えた時に頼る人を決める」等に関心が集まった一方、「誰かと和解する」「自分史を書く」等の希望については、低位にとどまった。また、「家族に看取ってほしい」「最期まで役割を持ちたい」「明るい部屋が良い」と感じる人が多い一方で、「多くの人に囲まれていたい」「生まれ故郷で最期を迎えた

い」と回答した人は、少なかった。

人生最終章の「希望」に関連する要因を探った結果、浮上したのは「人とのつながり」というキーワードである。ここでいう「つながり」とは生前に限らず、死を迎えた後にも、先立った人や、この世に残された人と、つながっているという意識である。出席者からは、「こうしたい」と「実際にできる」の間にはギャップがあり、多くの人は現実的なところに着地点を置いて回答したのでは、との見解や、「信仰による違い」を指摘する声があった。また、「死とは受け入れるものであり、希望を語ることに意味を感じない」「80代、90代と年齢を重ねて人の考えは変わる」との意見も述べられ、老いや死をめぐる今後の研究進展に向け、活発な議論が展開された。(佐藤惟 記)

(2) 「災害と地域社会」研究会：第3回シンポジウム「あれから5年～わたしたちはフクシマを忘れない～帰還を巡る諸問題」の概要報告

1) 日 時：2016年11月19日

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館低層棟6階第11会議室

3) 開催主体：「災害と地域社会」研究会と早稲田大学総合人文科学研究センター〈現代社会の危機と共生社会創出に向けた研究〉部門の共催

シンポジウム「あれから5年～わたしたちはフクシマを忘れない～」が、第3回目を迎えました。東日本大震災発生から5年半が経過し、福島県の避難元地域では帰還政策が進められています。そこで、今回は「帰還を巡る諸問題」をテーマに、避難者が抱える問題を、富岡町からいわき市に避難されている遠藤義之さん、神奈川県で支援を行っている高坂徹さん、山形県で避難者の支援をされている多田曜子さんにお話しいただき、浪江町から横浜市に避難されている伊藤まりさん、山形と東京で避難者支援を行っている早稲田大学客員研究者の松村治さん、早稲田大学の浦野正樹教授にコメンテーターをお願いしました。

富岡町からいわき市に避難されている遠藤義之さん（観陽亭代表、いわき地区広域自治会「さくらの会」事務局）は、福島原発で働いている作業員の方々からの要望で、自ら支配人として勤務していた富岡町の観陽亭という旅館を弁当工場に改装して営業を続けておられます。しかしその一方では、東京に避難している妻と2人の子どもたちと別れて暮らしており、今後の家族と一緒の帰還については保留のままです。また、神奈川県でNPO法人を立ち上げて、福島からの避難者の自主的な選択を支援しておられる高坂 徹さん

（「かながわ避難者と共にあゆむ会」副理事長）は、今の政府の政策は福島県の避難者に対して自己責任で対処することを求めている、これは第二次大戦後に満州から政府や軍部の要人は早々に引き上げ、一般移住者を放置したときと同じ扱いであるという感想を述べられています。また、山形県で避難者の支援をされている多田曜子さん（やまがた復興ボランティア支援センター事務局）は、自主避難者と強制避難者の気持ちに影響を与える要因を、子どもの成長や進学、経済的・心理的負担、家族間の意見の一致・不一致、帰還先の除染や住まいの状況などから客観的に説明されました。強制避難者は避難先へは帰らない選択をする傾向が強いが、いつかは帰りたいという気持ちもあること、とくに山形という福島に近いところに避難している人ほど、自主避難者は非常に不安定な状況にあることなどを指摘されました。

コメンテーターの発言やフロアからの意見も含めて、帰還の時期を行政の側で決めながら、すべての判断と心理的・経済的負担を避難者の自己責任に委ねる現在の政府の政策に対して大きな疑問と理不尽さを感じ、今後も注視していく思いを強くするシンポジウムとなりました。

(3) 第99回社会保障研究会概要報告

1) 日 時：2016年11月30日（水）18:00～20:00

2) 場 所：日本労働者協同組合会議室（豊島区東池袋1-44-3池袋ISPタマビル8階）

3) 講 師：島田千穂（東京都健康長寿医療センター研究所）

4) テーマ：終末期ケアの希望を事前に家族に伝えるということ；本人に内在する希望・共に創る希望
終末期ケアとは、人が必ず最期を迎えることを前提にしながら、最期まで苦痛なく生きることを目的として提供されるものである。

医療技術の進歩や価値観の変化と共に、終末期の定義は流動的で、明瞭ではない。人生最期に向けて少しずつ機能が低下する中で、治療の対象となる疾患が発見されると、どこまで治療し、どう生きていくかは、個人個人の選択に任されることになる。しかしながら、終末期には本人自身が判断できなくなることが多く、どう過ごしたいかを事前に話し合い、治療の限界を決めておくアドバンスケアプランニングの必要性が強調されるようになっている。

我々は、終末期にどう過ごしたいかを事前に考えてもらうためのツールを作成し、書いてもらう実践的な研究を行った。インタビュー調査の結果、ツールは動機づけとして機能した反面、「不確定な将来の状態を想

定することは困難」「家族に迷惑をかけたくないことが希望」と語られた。終末期の希望について、時間と空間から切り離して事前に言語化することは困難であり、現在の高齢者の希望は、周囲の状況に照らし合わせた文脈化されたものである可能性が確認できた。事前の希望は、周囲の人との相互作用から生じることを前提にして、ケアに取り入れる必要があると考えられる。(島田千穂記)

(4) 第39回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2016年12月22日(木) 15:00~18:15
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：

- ① 安田コーディネーターの報告：「持続可能な超高齢社会」研究のロードマップの提案と討論
 - ・ 当研究会は、2016年5月23日(木)開催の第33回から、「持続可能な超高齢社会とは何か」をテーマに討議を重ねて来ているが、今回は安田コーディネーターから当研究のロードマップ作成のため、今後の展開についての提案が配付資料により行われた。
 - ・ 研究会のゴールとして、提言書の作成を検討するが、濱口座長からテーマ「持続可能な超高齢社会」をベースに、「共通の土俵」を作ることと共に一貫した基本的な考え方を抑えておくことが大切であるとの示唆があった。
- ② 土岐啓子さん読後感発表：内館牧子著『終わった人』(講談社刊)
 - ・ 読後感発表の後意見交換が行われたが、濱口座長から、当著書は高齢者文学の可能性を開いた正にマイルストーンであり、「途中」という問題意識を提起している。この認識に立つと、人生は生きていく意義を持てるので、そのときどきの「通過点」が見えてくるとのコメントがあった。(島村記)

7. 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第15号 掲載原稿を募集します

一般社団法人シニア社会学会は広報誌のひとつ、学会機関誌「エイジレスフォーラム」第15号に掲載します『会員の声』および過去3年以内に出版しました『著書紹介』の原稿を募集します。下記の要項に基づき応募下さい。

◆『会員の声』

テーマ：日頃から考えていること、現在地域で活動して感じたこと、シニア社会学会のこれから、などテーマは自由です。

文字数：800字(30字前後の長短は可能)

締 切：2017年2月28日必着

送り先：シニア社会学会・事務局 担当武者宛電子メール(jaas@circus.ocn.ne.jp)添付。不可能な場合はFAX(03-5778-4728)にてお送りください。

◆『著書紹介』

過去3年以内に出版した著書、または共著をご紹介します。

応募方法：紹介著書の書評、及び著書本体(表紙画像掲載の為)を下記あてお送りください。

書評文字数：1,200字以内を厳守ください。

書評のみ電子メール(jaas@circus.ocn.ne.jp)添付にて、事務局担当武者宛お送りください。

締 切：2017年3月15日必着

送り先：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

一般社団法人シニア社会学会・事務局 担当 武者宛

尚、お送りいただきました著書は編集終了後返却致します。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>